

科目名	関係法規		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	保健・医療・福祉に関する法規を学び、看護者の役割を理解する。 看護師の法的責任とそれを守る意義を明確にする。 医療、看護を実践する上で、法的側面を理解する事は、他者の権利を守ることと同時に自己を守ることもつながることを理解する。		
到達目標	保健師助産師看護師法を学び、看護職の定義、業務、義務を説明できる。 保健医療福祉に関係する法規について理解する。 各種関連法規の学習を通して、医療保健福祉との関連を述べることができる。 演習を通して、他者の意見を聴き、自分の考えを表現する事ができる。 演習を通して、看護職の法的責任を守ることの意義を述べる事ができる。		
授業概要	講義・グループワーク・動画視聴により、看護関連法令を法律を学びます。 グループワークや事例をとおしての学習では、レポート等の提出物があります。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法律の基礎知識 法の概念・法の種類・法の分類</li> <li>2. 3. 看護法 保健師助産師看護師法 定義・法の構造・免許要件、業務とその範囲、沿革 看護師等の人材確保の促進に関する法</li> <li>4. 医事法 医療法 病院の管理、医療計画、医療関係資格法</li> <li>5. 医事法 保健医療福祉資格法、医療を支える法</li> <li>6. 保健衛生法 共通保健法、分野別保健法</li> <li>7. 保健衛生法 分野別保健法</li> <li>8. 保健衛生法 感染症に関する法律</li> <li>9. 10. 社会保険法</li> <li>11. 福祉法</li> <li>12. 労働法 個人情報保護法</li> <li>13. 関係法規に関わる調べ学習およびグループワーク</li> <li>14. 看護記録の重要性(事例を通して考える)</li> <li>15. 個人情報の取り扱いと法的責任(事例を通して考える)</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障(4) 看護関係法令 (医学書院) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)		
参考書	授業の際に提示する		
評価基準方法	テスト90点+演習後のレポートと演習参加の評価で総合評価します。 ただし、テストで6割(54点)をとれていない場合には再試験とします。		
備考・学生へのメッセージ	看護師は国民の健康を守り、責務を正しく遂行するために、看護関係法令の理解が必要となります。また、法といえども時代の要請で適宜変化しています。よって、予習・復習をして講義に臨んでください。		

科目名	地域医療論		
担当教員	島田 啓志(2時間) 大谷 菜穂子・長谷川 真弓・黒田 彩弥香・大和 真弓(13時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	地域社会の現状と重要性を学び、地域で看護できる基礎的能力を養う。		
到達目標	1.地域看護活動の実際が分かる。 2.病院における地域看護活動が理解できる。 3.地域医療のしくみやつながり、医療と介護のつながりを理解できる。 4.継続看護のための連携の実際を学ぶ。 5.各専門職の協働について学ぶ。		
授業概要			
授業計画・内容	<<島田講師>> 地域の保健医療福祉の現状と課題(総論) 1 公衆衛生, 地域保健活動の考え方 2 保健所の役割・機能 3 南空知の保健医療福祉の現状と課題  <<大谷講師・長谷川講師・黒田講師・大和講師>> 1 病院での地域看護活動とは 2 「退院」をとりまく現代社会のニーズ 3 退院支援とは 4 退院支援の実際 5 事例, グループワーク		
使用テキスト	地域医療テキスト 監修 自治医科大学		
参考書			
評価基準方法	出席状況と筆記試験にて総合的に評価する。 点数配分 島田講師 5点 谷講師・長谷川講師・黒田講師・大和講師 95点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅳ		
担当教員	金田 百香		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間
科目のねらい	訪問看護における看護過程の基本・特徴を学び、事例展開を通して援助方法を理解する。		
到達目標	1. 在宅における看護過程の特徴を理解する 2. 看護過程のプロセスを演習を通して理解する		
授業概要	事例を用いて看護過程を展開します。		
授業計画	内容		方法
	1回目	1.在宅における看護過程の特徴 2)生活モデルについて 3)図を用いた情報の統合 4)家族看護	講義
	2回目	1.事例紹介 2.実習記録を用いた看護過程の展開と評価	講義・演習
	3～4回目	看護過程の展開	個人ワーク
	5回目	看護の方向性について演習	GW
	6～8回目	看護過程の展開	個人ワーク
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		
参考書	関連図で理解する 在宅看護過程 (メヂカルフレンド社) 強みと弱みから見た在宅看護過程+総合的機能関連図 (医学書院) ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開 (ふくろう出版)		
評価基準方法	講義開始時にお伝えします。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅴ		
担当教員	川尻 有貴子(1時間) 阿部 襟香(1時間) 佐藤 剛(2時間) 畠山 恵理(11時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間
科目のねらい	地域で生活している対象に必要な多職種連携・協働について考え、看護の役割を理解する。		
到達目標	1.他の専門職の理解と、看護師に求められる連携の支援を理解することができる。 2.多職種連携の中での看護師の役割を理解する。		
授業概要	多職種カンファレンスのグループワークと演習を実施します。		
授業計画	内容		方法
	1回目	療養を支える看護師の姿勢 意思決定支援	講義・GW
	2回目	療養を支える職種との連携①	講義
	3回目	療養を支える職種との連携②	講義
	4回目	演習・事例提示	GW
	5・6回目	事例検討	GW
	7回目	発表会	GW
	8回目	まとめ	個人ワーク
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		
参考書	講義時に提示します		
評価基準方法	出席状況及び演習後のレポートで総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護Ⅲ		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	健康障害を持つ小児とその家族の特徴を理解し、発達段階や健康障害の状態に応じた看護に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。		
到達目標	1. 小児に特有な疾患を持つ子どもと家族の看護を理解できる。 2. 小児の事例を用いて看護過程が展開できる。 3. 小児看護を実践するために必要な看護技術が理解できる。		
授業概要	この科目では、疾患を持つ小児の健康問題の経過や症状に対する看護について学びます。また、健康障害をもつ小児の看護過程について学ぶ内容とします。		
授業計画・内容	<p>第1回 小児の看護過程の特徴</p> <p>第2～4回 急性期にある小児と家族の看護</p> <p>第5～7回 慢性期にある小児と家族の看護 事例を使用した看護過程の展開(演習)</p> <p>第8回 先天異常・染色体異常を持つ子どもの看護 低出生体重児の看護</p> <p>第9・10回 周手術期にある小児と家族の看護 手術を受ける小児の特徴、術前・術中・術後の看護</p> <p>第11回 災害時の小児の看護 子どもの虐待と看護</p> <p>第12・13回 終末期にある小児と家族の看護 子どもの死の捉え方、小児がんの特徴 終末期にある患児のDVD視聴 視聴後レポート提出</p> <p>第14回 心身障害のある子どもと家族への看護</p> <p>第15回 事故・外傷と看護(演習)</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) 写真でわかる 小児看護技術アドバンス (インターメディカ)		
参考書	講義の中で随時紹介します。		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(15%程度)、筆記試験(85%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	小児看護Ⅰ・Ⅱの復習をして臨んでください。		

科目名	母性看護Ⅲ		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	母性看護を実践するために必要な知識・技術を学ぶ。また、生殖をめぐる生命倫理問題について考え、自己の生命観を養う。		
到達目標	1. 生殖をめぐる生命倫理的諸問題について、今までの知識や実習体験をふまえ自己の考えを述べることができる。 2. 母性看護における看護過程の特徴を理解し、展開することができる。 3. 母性看護に特徴的な看護技術について理解し、安全に実施できる。		
授業概要	・母性における生命倫理問題の学習を通して、自己の生命観について考えレポートにまとめます。看護過程は、模擬事例(褥婦・新生児)を通してアセスメントから具体策立案まで実際に展開します。技術演習では、母性看護に特徴的な技術を中心に演習を行い、沐浴は技術試験になります。		
授業計画・内容	<b>1. 2. 3. 4 母性看護における生命倫理問題</b> 1)母性看護における生命倫理的諸問題とは 2)生命倫理諸問題について(出生前診断・着床前診断・不妊治療など) 3)レポート作成  <b>5. 母性看護における看護過程</b> 母性看護過程の特徴・ウェルネス志向での看護展開について  <b>6. 7. 8. 9. 紙上事例による看護過程の展開</b> 褥婦・新生児の事例について看護過程を展開する。  <b>10. 母乳育児について</b> 母乳育児について  <b>11. 12. 13. 母性看護技術演習</b> 沐浴・新生児のバイタルサイン測定・オムツ交換・抱っこ・排気・更衣 乳房の観察方法  <b>14. 15 沐浴技術試験</b>		
使用テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学(1) (医学書院) 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学(2) (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院) 領域別看護過程展開ガイド (照林社) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社)		
評価基準方法	講義終了後の筆記試験(70%)・演習参加態度・レポート(30点)で評価する。		
備考・学生へのメッセージ	本講義で学ぶ知識をもとに、後にある母性看護実習が展開されますので、理解しながら講義を受けましょう。看護過程の展開では、母性看護Ⅰ・Ⅱの知識が重要になりますので、復習しながら進めてください。		

科目名	精神看護Ⅲ		
担当教員	佐藤 かをり(20時間) 宮本 実・菅原 公絵・山下 育珠(10時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	精神に障がいをもつ対象とその家族の生活を援助するための基礎的知識を学ぶ。 精神障害を持つ対象に対するリハビリテーションを理解し、個別的な看護に生かせる能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な生活の場における精神看護について理解できる。</li> <li>2. 身体合併症を有する対象の看護について理解できる。</li> <li>3. 精神障がいを持つ対象の社会生活能力、対人関係技能などの特徴を学び、個々の対象者に対する関わり方やリハビリテーションの進め方を理解する。</li> <li>4. 精神障がいを持つ対象をとりまく環境(法律や社会復帰施設など)を理解し、対象者の長期的な予後について考えることができる。</li> </ol>		
授業概要	事例を用いた看護過程の展開から、精神に障がいをもつ対象とその家族の健康的側面を考慮した日常生活の自立にむけた援助について考えましょう。		
授業計画・内容	≪宮本講師・菅原講師・山下講師≫ 1. 精神障害をもつ対象者のリハビリテーションとは 精神障害のリハビリテーションの歴史 関連する法律や制度について・事例紹介 2. 精神障害者のリハビリテーションの構造 精神障害者作業療法プログラムと方法 治療プログラム体験(IMR) 3. 精神障害の理解 疾病に応じた作業療法の進め方 治療プログラム体験(メタ認知トレーニング) 4. 精神科デイケア 治療プログラム体験(SST) 5. 精神障害者を持つ対象者の地域生活を支えるサービス 日常生活の中に現れてくる基本的な問題、 具体的・個別的な精神行動特性 当事者や看護師が知っておくべきこと 事例紹介	≪佐藤講師≫ 1. 精神看護の看護過程 2. セルフケアと精神看護 3. [演習] プロセスレコード 4. 事例: 統合失調症をもつ患者の看護 (急性期) 5. 事例展開: 統合失調症をもつ患者の看護 (慢性期～回復期) 6. 事例: 気分障害をもつ患者の看護 7. 精神科における身体のケア 8. 外来と精神救急	
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学[2] (医学書院) 学生のための精神看護学 (医学書院)		
参考書	統合失調症を理解する 広沢正孝 (医学書院) 精神科リハビリテーション 野中猛 (中央法規)		
評価基準方法	筆記試験、事例提出、出席状況により総合的に評価する。 点数配分: 宮本講師・菅原講師・山下講師(30点) 佐藤講師(70点) ただし、宮本講師・菅原講師・山下講師は講義ごとに行う小テストの中から出題する筆記試験にて評価します。		
備考・学生へのメッセージ	教科書の該当ページ、配布プリントを確認し、積極的に授業に臨んでください。 精神科リハビリテーション場面において、対象者の発言や行動、行っている作業活動の意味を考えることは、よりその方の状態を理解することに役立ちます。これは他の科において対象者と関わる上でも役立つと思いますので、是非精神看護の勉強を通して対象者を診る目を養ってください。		

科目名	看護の統合 I 看護管理		
担当教員	小林 紀子		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護管理の意義や基礎的概念を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践の場におけるマネジメントの基礎的な知識・技術について理解する。</li> <li>・医療に関連する法制度について理解する。</li> <li>・安全管理,チーム医療,施設環境に関するマネジメントの知識を習得する。</li> </ul>		
授業概要	<p>・「看護管理」の教本を基本とし,他の資料も使いながら授業を進めていきます。</p> <p>・看護実践を管理するための事例についてグループワークを行い,臨床における看護管理の実践経過をシミュレーションすることで理解を深めていきます。</p>		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント</li> <li>2. 看護ケアとマネジメント</li> <li>3. 看護職のキャリアマネジメント</li> <li>4. 看護サービスのマネジメント</li> <li>5. マネジメントに必要な知識と技術</li> <li>6. 看護と諸制度</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	筆記試験により評価		
備考・学生へのメッセージ			



科目名	看護の統合Ⅱ 統合技術		
担当教員	熊木 美香(5時間)・畠山 恵理(5時間)・原野 理(5時間)		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	専門分野Ⅰで学んだ看護技術を統合し、看護を展開できる基礎的知識・技術・態度を身に付ける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数患者のアセスメントをふまえ優先順位を考慮した行動計画を立案し、グループで実践できる。</li> <li>2. 看護実践場面中に起こった緊急・突発事態に対し、適切な判断(連絡・報告・相談・調整・確認)および必要な援助ができる。</li> <li>3. 「看護者の倫理綱領」を理解し、責任ある行動をとることができる。</li> <li>4. 看護の統合と実践実習に向けた自己の課題を理解して目標を見いだせる。</li> </ol>		
授業概要	チーム単位で演習を進めていきます。演習発表では、複数の模擬患者に対し、優先順位を判断しながら必要な看護を実践します。3年間の集大成として適切な状況判断、安全安楽を考慮した看護技術の提供ができるよう学習をすすめます。		
授業計画・内容	<p>第1回           コースオリエンテーション                   チームカンファレンス</p> <p>第2～4回       チームカンファレンス                   複数受け持ち患者(模擬)への行動計画の検討                   看護技術演習</p> <p>第5～8回       複数受け持ち患者(模擬)への看護介入                   チームカンファレンス・実施に対する評価</p>		
使用テキスト	今まで使用したすべての教科書・参考書を使います。他資料等がある場合は、その都度提示します。		
参考書			
評価基準方法	レポート等の提出物や演習の参加状況(70%)と模擬患者の看護介入に関する活動状況(30%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	<p>演習では、根拠に基づいた援助が実践できるよう、今まで習った知識を確認しながら学習をすすめて下さい。また看護技術は、原理原則に則り練習を繰り返して下さい。</p> <p>本講義を通して自己の課題とその対策を明らかにすると共に、後にある看護の統合と実践実習に臨む準備もして下さい。</p>		

科目名	看護の統合Ⅲ 災害看護・国際看護		
担当教員	北岡 康平(11時間) 小池 真理子(4時間)		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	災害看護の特徴を理解し、災害時に適切な看護を行える基礎的知識・技術を理解する。 国際看護:世界の保健の現状を理解し、健康格差を解決するために、看護職としてどのような活動を実践する必要があるのかについて考えていきます。		
到達目標	国際社会の中での健康、保健の状況に関して理解を深め、看護者としてどのような活動が必要なのかについて、自己の考えを述べることができる。		
授業概要	国際看護:講義開始前に、課題を提示します。各自の学んだ内容をグループワークを通して共有し、講義の内容の理解を深めていくようにしてください。		
授業計画・内容	<p>≪北岡講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近年の災害 災害とは</li> <li>2. 災害の定義 歴史 災害サイクル DMAT ACCEPT CSCATTT トリアージ演習</li> <li>3. 災害看護の基礎知識 役割 救急と災害の違い 災害サイクルに応じた看護 活動場所別の看護</li> <li>4. 被災者に応じた災害看護の展開 こころのケア</li> </ol> <p>≪小池講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の国際状況を公衆衛生の視点から考える</li> <li>2. 国際看護の概念</li> <li>3. 国際協力と国際看護活動</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)		
参考書	演習で学ぶ災害看護 (南山堂) DMAT 完全マニュアル (メディカ出版) その他、授業の時に提示する。		
評価基準方法	筆記試験と授業態度などで総合的に評価する。 点数配分 北岡講師 80点 小池講師 20点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	医療安全		
担当教員	森本 千恵子		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療安全に関する知識を習得しリスク感性を養う。		
到達目標	医療安全の基本的知識を学ぶ。 医療事故と防止対策に関する考え方を学ぶ。 看護ケアの場面でも医療事故防止策について考えることができる。 演習を通して事故を回避する方策を学ぶ。		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に沿った項目について現場の事例を用いて説明します。</li> <li>・医療安全に関する事例についてディスカッション, 意見交換をします。</li> <li>・国家試験の過去問を参考にしながら, その内容を重点的に説明します。</li> <li>・前半の講義・実習での学びを元にグループで事例検討, 研修企画を考えて発表をします。</li> </ul>		
授業計画・内容	<p>&lt;前半&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故の考え方</li> <li>2. 事故防止の考え方</li> <li>3. 診療の補助業務に伴う事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 注射・内服与薬</li> <li>2) 医療機器の使用管理</li> <li>3) ドレーン・チューブの使用管理</li> <li>4) 検査</li> <li>5) その他</li> </ol> </li> <li>4. 日常生活援助業務に伴う事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 転倒・転落</li> <li>2) 誤嚥・窒息</li> <li>3) 入浴中の事故</li> <li>4) その他</li> </ol> </li> <li>5. その他の共通の事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションエラー</li> </ol> </li> </ol> <p>&lt;後半&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故分析・事故防止の考え方</li> <li>2. KYT演習</li> <li>3. RCA演習</li> <li>4. 医療事故防止の現場での具体的な取り組み</li> <li>5. 講義・演習を振り返り、事故防止のために必要なことを考える</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	講義・演習後のレポート提出、筆記試験、授業態度などで総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ	患者の安全・安楽を守ることができる看護師となるように、学びを深めましょう。		